HARIO SCI.
NEWS
vol. 320

HARIO

日常の中にある「ほっ」とする場所

Written by Design Dept. Satsuki Ohishi

すっかり秋らしい気候になり、行楽シーズンを楽しんでいる方も多いのではないでしょうか。日中は心地よい空気の中で体を動かしやすくなりましたが、夜になるとひんやりと冷え込み、温かいお湯が恋しくなってきます。

私の趣味は銭湯巡りです。東京の銭湯はどこも個性豊かで、訪れるたびにちょっとした旅をしているような気分になれます。

先日、東京都台東区にある「湯どんぶり栄湯」という銭湯に行ってきました。銭湯ですが、露天風呂があり、看板にはお湯の効能や歴史が書かれていて、ふと眺めていると、はるか昔からこのお湯に浸かってきた人々の姿が浮かんでくるような気がしました。何百年も前からこの土地の人々がここで疲れを癒し、心をほぐしてきたのだろうなと、しみじみ思いを馳せてしまいました。

↑湯どんぶり栄湯さんは、露天風呂の湯舟の中に、"どんぶり湯"があります。

私は九州出身で、大学時代は温泉地の別府をよく訪れていました。別府にはさまざまな温泉があり、浴室にポツンと１つだけお風呂があるような、地元民が日常生活で利用する銭湯もたくさんあります。お湯にゆっくりと身を委ねると、体がじんわりと温まるだけでなく悩みもお湯へ溶けていくようで、不思議と心までほぐれていく感覚がありました。頭で考えることがだんだんと消えていって、感覚だけが残るような、そんな静かな時間です。

↑明治12年（1879年）に創業の「竹瓦温泉」（別府市）。おすすめです！

別府の銭湯といえば、湯上がりに「おやすみなさい」と声を掛け合うことが当たり前のように行われていて、ちょっとしたことですが、「人と人とがつながっている」ぬくもりがあり、私もその土地の一員になったような気持ちで、「ほっ」としたのを覚えています。

湯上がりに残るのは、体の温かさと、ただ「ほっとしている」という感覚です。
それが、銭湯や温泉が与えてくれる「癒し」なんだなと感じます。
行くだけで温かさや安心を感じる場所があることは、とてもありがたいことです。
寒さが進むこれからの季節、心と身体をほっとあたためて、元気に過ごしていきたいです。

ハリオサイエンス 株式会社
〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町9-3
https://www.harioscience.com
TEL.03-6861-5602　FAX.03-6861-5603

harioscience